３ 地域福祉の推進

＜A　基本計画の目標＞

だれもが住み慣れた地域での支え合いにより、安心して豊かな生活を送るためのまちづくりをめざします。

＜B　目標指標：市民意識調査による市民の満足度＞

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	39.7 %	45.6 %	48.9 %	46.4 %	**48.1 %**	↗

＜C　目標達成に向けた24年度の実績と自己評価＞

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績（前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント）

【健康福祉部】	自己評価
地区社協や民生委員が主催するサロン活動や見守り活動、世代間交流事業などの情報収集や、鎌倉市社会福祉協議会のホームページ内に、地域福祉支援室の活動を紹介するコーナーを設けました。また、地域住民からサロン活動の立ち上げに関する相談を受けるなど、地域福祉活動の情報の収集・提供（発信）の充実に努めました。	◎
地区社協、自治町内会、民生委員児童委員、地域包括支援センター、住民等が主体となって取り組む防災・減災を見据えた日常からの見守り支え合う地域づくりを目的とした課題解決や活動の充実をめざす懇談の場づくりの支援を行いました。このことにより、地域課題に対する問題意識が住民の中で高まっています。 また、地域包括支援センターと市の老人センターによる、介護予防を通した両施設の利用者の交流の場づくりを支援しました。	◎
人材育成を目的とした生活介護支援サポーター養成事業への協力の他、各種研修会の実施に参画しました。	○

前年度当初目標に対し、◎＝８０％以上○＝５０％以上△＝３０％以上×＝３０％未満

＜D　前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況＞

【健康福祉部】 市民評価委員会などからの指摘		指摘等に対する改善策・対応など
・地域の福祉とは高齢者だけではなく、乳幼児も、障害を持った方々も全てが対象であろう。そのような大きな視野から地域福祉を充実させて頂きたい。	⇒	今後も地域で活動する団体などの情報収集・提供に努め、地域福祉の活動の輪が広がるよう、地域福祉の推進に努めてまいります。
・在宅高齢者生活支援は重要課題である。調査が必要と感じる。そして、地域社会の高齢化が地域福祉事業活動に及ぼす影響について、これからの大きな課題である。		見守り支えあう地域づくりには、人材育成は欠かすことのできない要素です。支える側にも高齢化の影響があると認識しており、福祉に関する講習会の企画など、途切れることのない支援の仕組みについて検討してまいります。

・地域福祉懇談会、地域ケア会議を、より活発に、未実施の地域で開催する支援を行っていく必要がある。福祉活動の推進役となる人材を発掘、育成する必要がある。	住民が主体となった地域づくりを推進するために、地区社会福祉協議会など福祉活動を行う団体との連携を深めてまいります。また、地域福祉を支える人材の発掘・育成についても、講習会の企画や地域で活動する団体等の把握に取り組んでまいります。
・市や社会福祉協議会のホームページの情報が相変わらず不十分（少ない・古い）なため、実態が把握しにくい。	ホームページの内容の充実に努めてまいります。
・実施計画事業7-3-1-①の運営内容についての記述が少ない。また、地域福祉支援室の活動が見えない。	ホームページなどの情報発信の手段の活用や、地域福祉支援室の職員が地域に出向くことにより、地域福祉支援室の活動を知っていただき、認知度を高めてまいります。
・鎌倉市広報を利用し、新しい試みは何度も市民に訴えて頂きたい。	様々な情報発信の手段を活用して、地域福祉についての認知度を高めていきます。
・地域福祉を独立させた形ではなく、地域運営のなかで取り組んでいくべきである。（コミュニティ活動の活性化施策との連携。）	地域福祉の推進が、地域コミュニティの活性化にも繋がるよう、活動を充実させてまいります。

＜E　24年度未達成事業の課題・問題点など＞

【健康福祉部】

地域住民が「地域で必要なことは地域で考えていく」意識を持って、自らが地域課題の解決に向けて取り組めるよう、地域福祉への関心を高めていく必要があります。
※未達成の理由〈支障となった理由〉

＜F　今後の展開（取組方針）＞

【健康福祉部】

地域福祉懇談会や地域ケア会議がより活発になるように、未実施の地域で開催への支援を行っていきます。また、福祉活動の推進役となる人材を発掘し、育成していくことで、地域住民の地域福祉に関する意識の向上につなげていきます。
ホームページなどの手段により、身近な地域情報を提供していきます。また、地域福祉支援室の取組が広く市民に伝わり、活動への理解が深まるよう周知方法・広報活動の改善していきます。
見守り支え合う地域づくりのために、地域住民、福祉活動団体、専門機関等の重層的なネットワークを構築し、複雑化する地域課題の解決につなげられるような地域福祉の拠点設置について、検討していきます。

＜G　実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標＞

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度目標値	H27年度目標値
福祉ボランティア団体構成員数（＋）	社会福祉協議会で把握している福祉ボランティア団体の登録者数	2,375 人	2,178 人	1,886 人	1,979 人	**2,091 人**	2,400 人	2,500 人
地域福祉活動の必要度（＋）	何か困ったことがあったとき、隣近所などと助け合うことができる市民の割合	61.0 %	59.3 %	62.9 %	63.2 %	**61.2 %**	66 %	69 %

＜H　事業コスト総額＞

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値　(A)	1,366千円	5,723千円	4,997千円	4,587千円	4,275千円			
	（国　・　県）	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	（負担金等）	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	（一般財源）	1,366千円	5,723千円	4,997千円	4,587千円	4,275千円			
	人員配置数	0.5人	0.7人	0.7人	0.5人	0.5人			
	人 件 費　(B)	4,597千円	6,477千円	6,281千円	4,409千円	4,052千円			
	総事業費（A＋B）	5,963千円	12,200千円	11,278千円	8,996千円	8,327千円			
	対前年比		204.6%	92.4%	79.8%	92.6%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。

評価できるところ

・地域福祉の重要性は認識されている。
・地域で支え合うことの重要さを地域の各種団体や市民に啓発し、その活動を支援している。
・地域福祉活動の多様化に対応している。
・防災・減災を見据えた地域の見守り、支え合いの意識や交流機能の向上が必要である。
・民生委員によるサロン活動や見守り活動、世代間交流事業など、福祉という枠組みを超えて市民がお互いに支えあう場を創出することは意義深い。
・地域福祉支援室は職員1名でその業務を行っているにも関わらず、様々な活動に取り組まれている。この活動等で見守りや世代交代事業の情報推進などを進められた。

課題・提言

・住民が主体となった地域づくりや、見守り支えあう地域づくりは狭義の福祉にとどまるものではなく、コミュニティ活動の推進で進められている地域会議と密接に関わっていく必要がある。
・福祉活動の推進役をどのように発掘するかの検討が必要である。
・地域住民、専門機関との重層的なネットワークに対処する必要がある。
・地域福祉懇談会や地域ケア会議などの活発化をいかに効率的に行うかが課題である。担当者の負担も考え、市民同士が支えあえる工夫を検討する必要がある。
・地域福祉活動の情報発信がまだ不足している。ボランティア増加の為にも情報発信をして、若い世代へ福祉活動をつなげる必要がある。地についた活動を今後も続けるべきである。
・高齢者や障害者にとって、共助は有難い地域社会の仕組みである。同じくして自助・自立をめざして努力することが肝要である。
・未達成となっている事業に対する課題や問題点などが把握されていない。
・平成24年度の市民評価委員会などからの指摘に対する回答について、「努めます」「取り組みます」「充実させます」等と回答されていることに対しては、平成25年度の評価シートにより、具体的にどの様な取組を行い、どの様な効果が得られたのか確認できるようにすべきである。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、<u>良好であった</u>。